

キャラクター名
沖永 聖 (おきなが ひじり)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	ウロボロス		年齢		15
オプション					
覚醒	命令	衝動	嫌悪	初期侵食率	51 %
出自	結社の一員	経験	喪失	邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	2	1	0			3	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	4	0	0	1		5	戦闘移動	14
社会	0	0	1			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	11		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	6	1	調達	8	
運転:			芸術:炊事	1	1	知識:学問	2		情報:噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: FH	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	RC	8r+11		21		侵蝕率+11。範囲(選択)、ダメージを与えるときラウンド間ダイス-9個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 要人への貸し	
コネ: 学園通の友人	
手配師	
思い出の一品	
デモンズシード	
エンブレム: アフターライフ	
エンブレム: 濃縮体	
ストレンジフェイス	
インフィニティエクリプス	
節制の仮面	
ナイフ	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
Dロイス: 頂の証	P	N		
信頼する先輩: 結希 愛絆	PU	憧憬	N	不安
妹: 沖永 尊	WH	庇護	N	不安
シナリオロイス: 知るここのなかつた母	P	懐旧	N	悔悟
PC間ロイス: 葉月 天華	P	連帯感	N	不安
	P	N		
Eロイス: 超越活性	P	N		

最大財産P: 18 残り財産P: 11

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: ウロボロス	3	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
原初の赤: 氷の塔	7	5	メジャー	視界	範囲(選択)	RC	-	
効果: 攻撃力[LV×3]の射撃攻撃、同一エンゲージ攻撃不可								
背教者殺し	8	4	メジャー	-	-	RC	-	
効果: ダメージを1点でも与えると、ラウンド終了時までダイス-[LV+1]個								
原初の黄: 加速装置	5	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: 行動値+[LV×4]、初期侵蝕率+3								
原初の青: 斥力跳躍	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 飛行状態で戦闘移動、移動力+ (LV×2) m								
原初の紫: 幻痛香	5	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 判定直前に使用、ダイス-3個。1回の判定に複数回使用でき、効果は重複する。シナリオLV回。								
原初の白: 時間凍結	1	7	イニシアチブ	至近	自身	自動	80%	
効果: メインプロセスを行う、HP20点消費。シナリオ1回								
原初の灰: 排撃の一手	5	5	オート	視界	単体	自動	120%嫌悪	
効果: 判定直前に使用、ダイス-[LV×2]個。ラウンド1回								
無形の影	1	4	メジャー	-	-	精神	-	
効果: 【精神】で判定を行う								
破壊の渦動	1	5	オート	至近	自身	自動	-	
効果: ダメージを与えた時に使用、シーン間装甲値を無視。シナリオLV回								
尾を喰らう蛇	1	4	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: HPを1D点失い「1点でもHPダメージを与えた際に使用」するエフェクトを使用できる								
原初の黒: 魔神の心臓	5	6	メジャー	-	-	シンドローム	100%	
効果: ダメージを1点でも与えると、ラウンド終了時までダイス-[LV×3]個。マイナーで解除可								
巨人の影	1	3	オート	至近	自身	自働	-	
効果: ダメージを与えた時に使用、エフェクトを1つ選びLV+2。シーン1回								

オーヴァードアカデミアに今期から入学した1年生。元FHチルドレン。

生まれは春日一族などと並び称されるFH内でも相応に名の売れた一族であり、代々組織内の権力者・実力者に仕えてきた家系。少女も生まれた時からFHの先兵となる事が義務付けられており、その為に物心ついた時にはオーヴァードとして覚醒させられ、毎日血の滲むような訓練を受ける生活が当たり前だった。幸い少女にはオーヴァードとしての才能があり、年齢が2桁になる頃にはUGNとの直接的な戦闘から要人の暗殺、FH内での裏切り者の処理といった汚れ仕事まで、命じられるまま任務に就いていた。

黙々と与えられた任務に従事していた少女だったが、ある日ふとこう思ってしまう。「自分は何のために人を殺しているんだろう」と。少女は叶えたい願いもなく、人を殺し続ける動機もなく、ただ命じられるままに人を殺すだけの日々突如疑問を抱いてしまった。自分の周囲の人達に聞いても、ほぼ共通して「それは不要な思考・感情だ」とだけ返された。以前の少女ならそれで納得できたが、何がきっかけか自分でも分らないうちに普通の人間なら早い段階で持つであろう疑問を今更ながら感じてしまった少女は、それを払拭する事が出来なかった。それ以降も任務をこなし続けたが、悩みは消えるどころか深まるばかりだった。

悩んだ末、少女はある潜入任務を片付けた後、一族から姿を消した。理由は純粋に、モチベーションの低下。ただ仕事として一切の感情を挟まず任務に当たっていたはずが、そこに『理由』を求めるようになってしまったから。そして、今はまだ平気だとしても、いずれその事による業の陰りが任務に、ひいては同僚達に害をなすと判断したため。自身が逃走者・裏切り者の汚名を受けるとしても、それは兵士として余計な感情を抱いた自分の過失だと受け止めたが、かといってそれを罰として受け入れ、欠陥品となった自分の『破壊』を受け入れるには、胸の中で膨らんだ疑問は大きくなり過ぎた。

失踪直後は旅先で身分を偽りながら当てもなく放任していたが、ある日こういった噂を耳にした。『とある島に、オーヴァードが集まる学園がある』と。一族の子以外で自分と同年代のオーヴァードと会話したことがなかった少女は、「(少女にとって)普通の子達は、いったいどんな気持ちで自分の力と向き合い、戦う事を選ぶんだろう」とその話に興味を抱いた。場所が本土から離れた孤島らしいという事も、一族から距離を置くのには好都合だと感じた。それから半年後、その学園・オーヴァードアカデミアの事についてなんとか調べた彼女は暗殺者時代に手に入れた偽りの名前と身元を使い受験、無事入学する事となり、現在に至る。

